

ニセコ町

# 子どもの読書活動推進計画

平成25年度～平成29年度



ニセコ町教育委員会

## ニセコ町 子どもの読書活動推進計画 目次

はじめに	p 2
第一章 計画策定の基本的な考え方	
1 計画の目的	p 3
2 ニセコ町の現状	p 3～5
3 具体的な目標	p 5
4 計画の対象	p 5
5 計画の期間	p 5
第二章 具体的な取組	
1 子どもたちが読書を生活習慣として身につけられるような環境づくり	p 6
2 子どもたちが、本の世界を楽しむことができるような取組の推進	p 7
3 学校、家庭、地域、関係機関が連携した読書活動の推進	p 8
ニセコ町 子どもの読書活動推進計画策定委員 名簿	p 9
関係機関の取組一覧	p 10

はじめに

科学技術の進歩により、誰もが家庭や学校、職場でパソコンや携帯電話などを利用し、インターネットから様々な情報を得ることができるようになりました。しかし、このような情報メディアの発達・普及や子どもの生活環境の変化、幼少期からの読書習慣が身についていないことなどにより、子どもの「読書離れ」が課題になっています。

新学習指導要領では、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視しています。読書によって言葉を学び、思考や想像を働かせて、豊かな感性や表現力、創造力を培うことができます。子どものうちに読書活動を充実させることが、人生をより深く生きる力を身につけていく源になるのです。

ニセコ町では、子どもの読書活動推進のために、幼児センター、各学校、社会教育、学習交流センター「あそぶっく」など関係者が集まり、「子どもの読書活動推進計画策定委員会」を開催し、調査研究を進めてまいりました。幼児から高校生までを対象にとったアンケートでは、7割以上が本が「好き」「どちらかというが好き」、本を読む理由では小学生の8割が「おもしろいから」と答えています。読書を肯定的に捉えている割合が多い反面、1ヶ月に「全く本を読まない」と答えた子どもは年齢が上がると増加し、高校生では4割に達しているという結果も出ています。

こうした子どもたちの読書に対する現状と課題を踏まえて、より読書に親しむことができる事業や取組の推進、読書習慣の定着を目指した環境づくり、学校や家庭、地域、関係機関が連携した読書活動の推進に取り組んでいきたいと思えます。

平成24年度は「あそぶっく」会員による読書ボランティア活動をはじめ、ニセコ小ブックフェスの開催、約400名の参加者が集った「ほっかいどうブックフェスティバル in しりべし」の盛況、各学校での「一斉読書」の実施など、読書推進の上で大きな成果をあげました。

今後もニセコ町の子どもたちがより一層心豊かにたくましく成長することを願い、本計画を着実に進めてまいりたいと思えます。

終わりになりますが、計画作成にあたりご苦勞をおかけしました策定委員をはじめ関係機関やアンケート調査にご協力くださった皆さんに心より感謝申し上げます。

平成25年3月 ニセコ町教育委員会教育長 菊地 博

## 第一章 計画策定の基本的な考え方

### 1 計画の目的

情報化社会が進展し、私たちはインターネットなどを利用すればさまざまな情報を簡単に得ることができるようになりました。しかし、便利な反面、自分で物事を考えずに断片的な情報を受け取る受身の姿勢をもたらすことが憂慮されており、深く考える力や自分の思いを言葉で伝える力の低下が懸念されています。文字を読むことで情景や心情を想像し、物語世界の創造を繰り返す読書活動は自主的・能動的な活動であり、子どもの豊かな感性や表現力、創造力を育む基礎となるものです。これらのことから、読書活動の充実は今後ますます必要となると考えられます。

一方で、現在の子どもを取り巻く、生活の多様化やIT機器の普及が読書離れの原因となっていることも事実です。

そこで、子どもの読書をめぐる現状について再認識するとともに、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所で読書に取り組める環境を整え、読書が好きな子どもが増えるよう、学校・家庭・地域など読書に関係する機関が果たすべき役割を定め、子どもの読書活動を総合的に推進するために「ニセコ町子どもの読書活動推進計画」を策定します。

### 2 ニセコ町の現状

#### (1) 読書アンケートの結果から

- ①実施期間 平成24年7月
- ②実施対象 幼児センター0歳児から高校3年生まで
- ③回答の概要

#### 【総括】

- ・本が「好き」「どちらかというとき」という回答が7割以上、本を読む理由については「おもしろい」「ためになる」という回答が上位を占める中、一ヶ月の読書量や図書館の利用については低い傾向にある。本を読まない理由は「読みたい本がない」「時間がない」が上位であり、多忙な子どもたちへ意図的に読書環境を提供する工夫や、子どもたちが読みたい本を見つけられるような読書アドバイス、年齢に応じた図書の整備などが必要である。

#### 【概要】

- ・「本が好き」「どちらかというとき」と答えた子どもはどの年齢層でも7割を超える。ただし、年齢が上がると減少する。(幼児98%→高校生70%)
- ・本を読む理由は「おもしろい」が最も多い。(低学年81%、高学年84%、中学78%、高校62%) 次いで、「ためになる」「調べ物をする」が多い。
- ・一ヶ月に読む本の冊数は、小学校低学年で10冊以上が約55%で最多。年齢が上がると冊数は減るが、本の内容も影響していると考えられる。0冊と答えた子ども

- ・もは年齢が上がると増加する。(低学年4%→高校43%)
- ・本を読まない理由は「時間がない」が最も多い。(低学年30%、高学年38%、中学59%、高校57%)次いで、「読みたい本がない」が多い。
- ・学校終了後にすることは「部活動」「勉強」「テレビ」「ゲーム」が上位。年齢が上がると「携帯電話・スマートフォン」が増加する。
- ・一ヶ月に学校図書館へ行く回数は、年齢が上がると減少。0回と答えた子どもは、小学校低学年28%、高学年20%、中学生31%、高校70%であった。
- ・一ヶ月にあそぶっくへ行く回数は年齢が上がると減少。0回と答えた子どもは、小学校低学年15%、高学年33%、中学生63%、高校62%であった。
- ・学校図書館および、あそぶっくに行かない理由は「時間がない」「読みたい本がない」「用事がない」がともに上位。

## (2) 各関係機関の概況

### ①学習交流センターあそぶっく

- ・乳幼児や子育て支援センター、小学生への読み聞かせ活動を始め、図書便りなどの啓発活動、図書の一括貸出や図書委員会へのアドバイスといった学校支援を行なっている。
- ・小学校中学年以降になるとあそぶっくから足が遠のくことや、高校や家庭への働きかけが少ないという現状がある。また、読書アドバイスをするためのスキル向上が必要である。

#### 【H23年度実績】

- ・蔵書冊数 29,469冊 (児童書8,749冊)
- ・入館者数 44,953人
- ・貸出人数 9,625人
- ・貸出冊数 38,970冊

### ②幼児センター

- ・毎日、読み聞かせの時間を設けたり、幼児センターの本の貸し出しをするなど、本を身近に感じたり自由に手に取れる環境づくりをしている。修了、卒園記念に絵本(童話)のプレゼントも行なっている。
- ・家庭では多忙のため読み聞かせの時間をとれないことや、本の貸出について知らない親がいるなど、家庭へのアプローチが必要。

### ③ニセコ小学校

- ・図書室の環境整備や図書便りの発行を通し、啓発活動を行なっている。また、あ

そぶつくと連携した読み聞かせや学級文庫の設置、朝読書、学校ブックフェスティバルなどを実施している。

- ・朝読書はドリル学習もあり、毎日の継続ができないなど取り組みの方法を見直す必要がある。本を選べない児童やマンガを好む児童がおり支援の必要性を感じる。

#### ④近藤小学校

- ・各学級で朝読書に取り組んだり、学習部によるおススメ本の紹介や、あそぶつくと連携した読み聞かせを実施している。
- ・あそぶつくの本の中から、PTAによる学級文庫の選書を行なっている。
- ・朝読書は基本的に毎日行なっているが場合によって異なる活動になることがある。

#### ⑤ニセコ中学校

- ・朝読書週間を設け、教員も一緒に本を読む機会を設定している。ニセコ中ブログで、新着本やおススメ本の紹介も行なっている。
- ・読書に対して否定的な生徒、苦手意識をもっている生徒に対するアプローチを工夫し、多くの生徒に利用されるような図書室環境づくりが必要。
- ・朝読書は日課との調整が必要。

#### ⑤ニセコ高等学校

- ・図書室の環境整備や週3回の図書室開放を行なっている。生徒に対して購入希望図書調査も実施している。
- ・図書室に来る生徒が少なく、読書に興味を示さないという現状があるので、本を身近に感じさせるような取り組みが必要。

#### ⑥学童・放課後子ども教室

- ・読書時間を設定したり、読みきかせを実施している。
- ・短時間で不定期の活動なので長編の物語より図鑑や絵本を手にする子どもが多い。

### 3 具体的な目標

- 目標1 子どもたちが読書を生活習慣として身につけられるような環境づくり
- 目標2 子どもたちが、本の世界を楽しむことができるような取組の推進
- 目標3 学校、家庭、地域、関係機関が連携した読書活動の推進

### 4 計画の対象

0歳から18歳まで

### 5 計画の期間

平成25年度から平成29年度までの5年間

## 第二章 具体的な取組

### 目標1 子どもたちが読書を生活習慣として身につけられるような環境づくり

子どもたちが読書を生活習慣として身につけられるよう、子どもが本と出会い、日常的に楽しく読書ができる環境を整えます。また、子どもの読書活動の意義や重要性について、学校・家庭・地域の理解と関心を深める啓発活動を行ないます。

#### ■あそぶっくの環境整備

- ・学級文庫などの一括貸出
- ・広報誌やポスターによるおススメ本の紹介
- ・ボランティアによる読みきかせや、ブックトーク
- ・あそぶっく館内の環境整備

#### ■学校図書館の環境整備

- ・学級文庫や本棚の設置
- ・担当教員や児童生徒による図書室の明るい雰囲気作り
- ・子どもたちへの希望本アンケートの実施や、良質な本の確保
- ・本の整備を通し、本を大切に作る心の育成
- ・図書便りや通信などによる啓発

#### ■放課後子ども教室・学童保育所など関係機関の取組

- ・寄贈本や廃棄本を活用した文庫の整備

#### ■教育委員会の役割

- ・計画的な蔵書整備や施設環境の整備
- ・寄贈本や廃棄本を活用した公共機関の図書コーナー設置
- ・利用者のニーズに応じた、あそぶっくの運営方針の検討

#### ■家庭への働きかけ

- ・読書や読みきかせの大切さを伝える啓発活動
- ・本の大切さの啓発やおススメ本の紹介
- ・読書時間作りの啓発（テレビを消す日、時間の推奨など）
- ・ブックスタート事業の実施
- ・幼児センターによる卒園、修了記念の絵本プレゼント
- ・ラジオニセコでの読み聞かせや新着本紹介など
- ・PTAによる学級文庫の選書など、保護者が読書に興味を持つような活動の推進

	指標	平成24年度	平成29年度
指標1	1ヶ月の学校図書館の利用0回の割合を減少	小低 28% 小高 20% 中 32% 高 72%	小低 15%以下 小高 15%以下 中 20%以下 高 50%以下
指標2	1ヶ月のあそぶっくの利用0回の割合を減少 (あそぶっく文庫などの利用も含む)	幼 26% 小低 15% 小高 33% 中 63% 高 62%	幼 15%以下 小低 15%以下 小高 20%以下 中 50%以下 高 50%以下

## 目標2 子どもたちが、本の世界を楽しむことができるような取組の推進

子どもたちが読書の楽しさを知るために、学校・家庭・地域などが連携し、子どもの発達段階に応じて読書の楽しさを知ることができる取組を進めていきます。

### ■あそぶっくの取組

- ・ボランティアによる読みきかせや、ブックトーク、おはなし会など
- ・読書に親しむためのイベント開催（あそぶっくまつり、読書ライブなど）
- ・子どもたちが読書を楽しむことができるような読書アドバイザーの派遣

### ■学校図書館の取組

- ・朝読書などの読書時間、読書週間の設定
- ・HRや授業時間を活用した、読みきかせや本の紹介、感想交流
- ・担任の先生や児童生徒同士による読み聞かせ
- ・図書委員会の活動
- ・読書カードの活用など、読書量や読書の記録を振り返ることができるような取組
- ・学校ブックフェスティバルなどの読書イベント開催
- ・国語や総合的な学習の時間を活用した、本の読み方・調べ方指導

### ■放課後子ども教室・学童保育所など関係機関の取組

- ・読み聞かせや読書の時間の設定

### ■教育委員会の取組

- ・教育委員会を窓口にした事業の実施
- ・あそぶっくの会の活動支援

### ■家庭への働きかけ

- ・親子での読み聞かせ会参加、読み聞かせ講座の実施
- ・親子でのあそぶっく利用推進

	指標	平成24年度	平成29年度
指標3	本を読むのが「好き」「どちらかというが好き」と答える児童生徒の人数の割合	幼 98% 小低 91% 小高 90% 中 80% 高 70%	すべての校種 80%以上
指標4	一ヶ月の読書冊数0冊を減少	幼 0% 小低 4% 小高 5% 中 29% 高 41%	幼・小 10%以下 中 20%以下 高 30%以下
指標5	読書推進のための行事、イベントの実施		各機関で 年2回以上



### 目標3 学校、家庭、地域、関係機関が連携した読書活動の推進

読書に親しむ子どもたちを増やすため、関係職員の研修の機会を設けたり、それぞれの機関との交流や派遣事業を進めたりするなど、学校、家庭、地域、関係機関が連携した取組を進めます。

#### ■あそぶっくの取組

- ・学校図書館支援のためのスタッフ派遣
- ・学校行事等における出張読み聞かせやブックトーク
- ・あそぶっくによる学校図書館の環境整備支援、図書館運営アドバイス
- ・年齢に応じたおススメ本リスト（ブックリスト）の作成

#### ■学校図書館の取組

- ・あそぶっくにおける、中高生の図書委員による朝読書用図書の選書、PTAによる学級文庫の選書
- ・中学生、高校生の読み聞かせボランティア
- ・子ども読書会議の開催

#### ■放課後子ども教室・学童保育所など関係機関の取組

- ・あそぶっくと連携した、イベントの参加
- ・あそぶっくの本の団体貸出利用

#### ■教育委員会の取組

- ・図書関係者による図書会議の開催
- ・図書ネットワークを活用した図書の管理、活用方法の検討
- ・読書指導のための研修機会の提供
- ・計画の進行管理
- ・計画の評価及び見直しをする会議の開催

	指標	平成24年度	平成29年度
指標6	あそぶっくから一括貸出をする貸出冊数	3,462冊 (H23年度)	3,800冊以上
指標7	関係職員の情報交流会、研修会		年5回以上

## ニセコ町 子どもの読書活動推進計画策定委員 名簿

委員長 矢島 誠 あそぶっく事務局長  
副委員長 吉田 俊明 放課後子ども教室学習アドバイザー

### ○読書活動関係者

吉川 洋子 あそぶっくの会副理事長  
木下 歩 あそぶっく図書主任

### ○学校図書関係者

福井 美貴子 ニセコ小学校  
小坂 眞貴子 近藤小学校  
菊池 美穂 ニセコ中学校  
相田 拓郎 ニセコ高校  
酒井 葉子 幼児センター

### ○学校教育関係者

新井 融 ニセコ小学校校長  
菊地 博 ニセコ中学校校長(H24.7.24～)  
廣澤 信弘 ニセコ中学校校長(H24.12.5～)

### ○社会教育関係者

伊藤 賢 学童保育所指導員

### (事務局)

折内 光洋 教育委員会町民学習課課長  
淵野 伸隆 教育委員会町民学習課係長  
三橋 公一 教育委員会学校教育課係長  
内田 一誠 ニセコ小学校事務・学校間連携担当  
青山 智恵 教育委員会町民学習課社会教育主事

## 子どもへの働きかけ

### 関係機関 共通の取組

- ・読書時間の設定（朝読書など実態に応じて）
- ・読みかきや本紹介、感想交流の場の設定
- ・図書委員会など子どもたちが主体となった活動

### 環境整備

- ・学級文庫や本棚の設置 ・ 寄贈本、廃棄本の活用
- ・図書室の明るい雰囲気作り ・ 良質な本の整備
- ・本の整備を通し、本を大切にすることの育成

ブックスタート

お便りでの啓発

本の買出PR

読み聞かせ

学校ブックフェス

読書カード活用

子供向け情報誌  
「きっず」

本の読み方、調べ方指導

あそぶっくらぶ

児童同士の本紹介や読み聞かせ

ポスターでの  
おすすめ本

朝読書用図書  
図書委員による選書

子ども読書会議

中学生・高校生による  
図書室整備

中学生・高校生の読み聞かせボランティア

幼児(0～5歳)

小学生(5～12歳)

中学生(12～15歳)

高校生(15～18歳)

あそぶっくらの取組

- ・学級文庫などの一括貸出、おススメ本の紹介や貸出 ・ 出張読みかきや、ブックトーク、ブックリスト作成
- ・読書に親しむためのイベント開催 ・ 学校図書館環境整備支援 ・ 読書アドバイザー派遣

教育委員会の取組

- ・計画的な蔵書整備、施設環境整備 ・ 利用者のニーズに応じたあそぶっく運営方針検討
- ・あそぶっくらの会活動支援 ・ 各機関との窓口となり読書推進事業を実施 ・ 図書担当者会議開催
- ・図書ネットワークの管理 ・ 研修機会の提供 ・ 計画の進行管理 ・ 計画の評価会議開催

家庭へのアプローチ

- ・読書や読みかきかせの啓発 ・ P T A 活動を通じた読書推進活動と啓発 ・ 親子でのあそぶっく利用促進
- ・読み聞かせ講座実施 ・ 本の大切さやおススメ本の紹介 ・ 読書時間作りの啓発（テレビを消す日、時間の推奨）
- ・ラジオニセコでの読み聞かせ

## 子どもの読書推進に関わる各関係機関の取組